



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 ×
3 ×	4	5	6	7	8	9 ×
10 ×	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20 ×	21	22	23
24 ×	25	26	27	28	29	30
31						

施設見学 9:00~16:00
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30~20:00

天体観望会 18:00~20:00
(定員あり/要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。

天体観望会

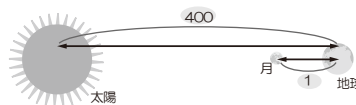
荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。
(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問 ?

観望会などでよく聞かれる質問にお答えします★

? 太陽と月はどちらが大きい?

地上から見ると、太陽と月は、ほとんど同じ大きさに見えます。でも、本当の大きさはぜんぜんちがいます。太陽の大きさは、月のおよそ400倍です。ところが、太陽から地球までの距離は、月から地球までの距離のおよそ400倍あります。ぐうぜん、月の400倍大きい太陽が、400倍遠いところにあるので、同じ大きさに見えるのですね。
また、地球から見ると、太陽の通り道と月の通り道は少しずれているのですが、太陽-月-地球が一直線に並ぶと、「日食」が起こります。太陽が月にすっぽり隠される「皆既日食」は、非常に狭い地域でしか見られません。次に日本で皆既日食が見られるのは、2035年9月2日、北陸から関東にかけてです。



? 日の出や日の入りの時刻ってどのように決められているの?

「太陽の上辺が地平線と同じになったとき」が、日の出・日の入りの時刻と決められています。太陽が地平線から顔を出し始めた瞬間が日の出、太陽が地平線にしずみきって見えなくなった瞬間が日の入りとなります。また、月の出・月の入りは「月の中心が地平線と同じになったとき」となっています。月は形が毎日変わるため、太陽とは基準がちがいます。



企画展

太陽系のお天気展 5月7日(火)~8月9日(金)開催!

太陽系には8個の惑星があり、その環境はさまざまです。それぞれの惑星のお天気を比べてみます。また、太陽の活動と関係の深い宇宙天気についても紹介します。

この展示は、明石市立天文科学館で2/3~4/6で開催されている特別展を巡回するものです。特別展の担当当学芸員は、本学理学部宇宙物理・気象学科の卒業生(令和2年卒業)です。また、神山宇宙科学研究所が協力しており、金星や火星の気象学を専門とする高木 征弘教授、佐川 英夫教授、安藤 紘基准教授、小郷原 一智准教授(全て本学理学部)が展示内容の監修を行いました。

観望会のススメ

星座早見盤の使い方を覚えましょう!

その日見える星が見つけやすい!

Star Disk 星座早見盤

羽織るものはマストアイテム!

夜は意外と寒いよ!

わからない事は近くにいる補助員や先生に聞いてみて!

名札や光るものを付けているのが目印です★

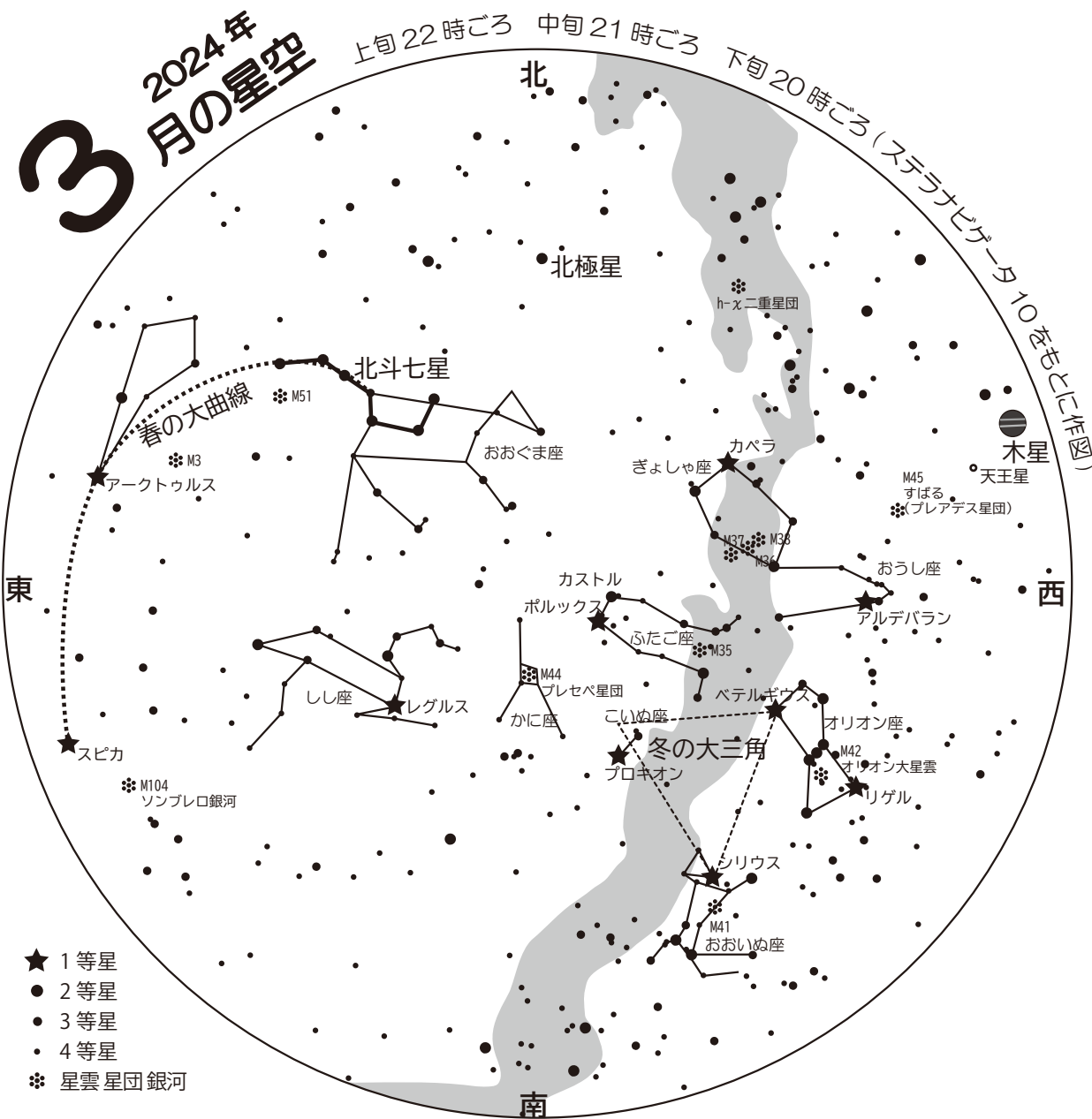
STAFF

安全に楽しく天体を観望しましょう!

神山天文台で待ってるよ!!



2024年3月 見ごろの天体



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

3月20日 春分の日

祝日となっている「春分の日」。年によって3月20日だったり、21日だったり…。春分の日と秋分の日は国立天文台の暦計算によって定められています。「春分」とは、太陽の通り道と天の赤道が交わる点（春分点）を、太陽が南から北に通過する瞬間を言います。私たちの暮らしの中では、「太陽が真東から上って真西に沈む日」ですが、「昼と夜が同じ長さの日」ではありません。その理由は表面の質問コーナーをご覧くださいね。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は安定して輝く時期が長く続きますが、恒星の内部の水素を使い果たすと恒星の内部が縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。太陽の約20倍です。オリオン座のベテルギウスは赤色超巨星で、直径は太陽の約650倍も大きいことが観測されています。恒星の寿命が尽きようとしていて、いつ超新星爆発を起こしてもおかしくありません。

★散開星団（さんかいせいだん）：Open cluster

ぎょしゃ座のM36、M37、M38、おおいぬ座M41、かに座のM44（プレセペ星団）などが見ごろです。少しずつ集まり方の異なるぎょしゃ座の3つの星団も比べてみましょう。恒星は、ガスの濃いところで集団で生まれ、若い星たちが集まった散開星団となります。やがて、散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。

★散光星雲（さんこうせいうん）：Diffuse nebula

西に沈みゆくオリオン座の三つ星のすぐ南に並び小三つ星のうち、真ん中の天体は星ではなく散光星雲M42で、この中で今も次々と星が生まれています。望遠鏡を覗くと、星雲のガスと、生まれてから約150万年しか経っていない赤ちゃん星が台形の形に4個並んでいるトラペジウムが見えます。明るく輝く生まれたての星々の光が周囲のガスを照らして温めることによって、オリオン大星雲は輝いています。

★二重星（にじゅうせい）：Double star

春の夜空では、いくつかの重星を観望することができます。重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡を覗くと2つの星に見えます。北斗七星を形作るおおぐま座ε（ゼータ）星（ミザール）は、肉眼でもアルコルとペアになっているように見えますが、これは同じ方向に偶然星がある「見かけの二重星」と考えられます。一方で、ミザール自体は2つの星がペアになった連星です。望遠鏡を使うとミザールの2つの星を見ることができます。その他、りょうけん座コル・カロリやしし座アルギエバも観察しやすい二重星です。